

# 英語リーディング教材を利用した教養力を高める試み II

森永弘司

## 1. はじめに

今回の発表は昨年の本学会での発表「英語リーディング教材を利用した教養力を高める試み」の続編にあたるものである。今回の発表は薬袋・森永(2009)『名文で養う英語精読力』と斎藤・中村(2009)『文学で学ぶ英語リーディング』を使用して授業をおこなったクラスで実施した教養についてのアンケート調査、学生が感銘を受けたり、興味を持った作品についてのアンケート調査、および文学作品が学生の全般的な英語力を上で効果があるかどうかを検証するために実施した3種類のテスト結果に関する報告を中心におこなった。

## 2. 現在の大学の英語教育の潮流

現在の大学の英語教育では、「TOEIC の得点を伸ばすことを主眼としたカリキュラム」と「学生の専門に特化した ESP プログラムの導入」が主流になって来ている。TOEIC が重視されるようになってきた原因としては、英語能力を測定する標準テストとして信頼度が高いことと、TOEIC の得点を重視する企業がますます増えてきていることが挙げられる。ESP の導入はグローバル化の進展に伴い、英語を使用できる即戦力を期待する企業からの要請が大きな要因になっていると推察される。

## 3. 教養教育 (Liberal Arts) の再評価

現在の大学の1, 2年生の英語教育では、上で述べたように実用や専門を重視した教育が行われるようになったために、かつての英語教育が担っていた教養教育 (Liberal Arts) 的側面が軽視されるようになってきた。しかしながら近年教養教育をもっと重視すべきだという声が強まってきている。その一例として東京工業大学のリベラルアーツ教育について紹介したいと思う。東京工業大学リベラルアーツセンター教授の池上(2012)は『学び続ける力』の中で東工大の目指すリベラルアーツ教育に関

して次のように説明している。「日本の大学教育は、専門性に重点を置くようになっていますが、その結果、「人間としての教養」を軽視する傾向への反省が語られるようになっていきます。... 私たちは、「リベラルアーツ」を「人間としての教養」、また、「リベラルアーツ教育」を「人間としての教養教育」と捉え、日本の将来を担う若者たち一人ひとりがみずからの世界を広げるとともに、自己を深める教育の場として捉えています。... それは、一人ひとりの人間性を高め、また社会性を培うための教育です。」この言葉から東工大が教養教育を大学教育の重要な柱としていることが伺える。

#### 4. 教養についての質問紙調査

発表者は大学の英語教育も教養教育に資するべきだと考えている。近年大学生の読書離れが指摘されているので、英語で小説や古典的名文を読ませることも意義のあることだと確信している。今回私のクラスの受講生 87 名に対して次の 2 つの質問をおこなった。1. 「文学作品が教養を高める上で効果のある教材かどうか」、2. 「文学作品を大学で教える意義があるかどうか」。1 の質問に対して「そう思う」と答えた受講生が 58 名、「強くそう思う」が 20 名、「よくわからない」が 8 名、「そう思わない」が 1 名であった。2 の質問に対しては「そう思う」と答えた受講生が 52 名、「強くそう思う」が 19 名、「よくわからない」が 14 名、「そう思わない」が 2 名であった。この調査で 9 割近い学生が文学作品を教養を高める上で効果ある教材だと考えており、8 割弱の学生が大学の英語の授業で文学作品を教えることが意義のあることだと認めていることが判明した。

#### 5. 感銘を受けた或いは面白いと感じた作品の調査

葉袋・森永 (2009) 『名文で養う英語精読力』を使用したクラスの受講者 63 名と斎藤・中村『文学で学ぶ英語リーディング』を使用したクラスの受講者 24 名に対して、テキストに収録されている作品で感銘を受けたもの、或いは面白いと感じたものを選んでもらう (複数の作品を選んでもよい) 質問紙調査を実施した。『名文で養う英語精

読力』に収録されている作品のベストファイブは、O. Henry (25名)、Hemingway (17名)、Churchill (16名)、Orwell (12名)、Maugham (11名)であった。『文学で学ぶ英語リーディング』に収録されている作品のベストファイブは、Dickens (10名)、Anonymous (7名)、Tim O'Brien (7名)、Raymond Carver (6名)、Lori Peikoff (5名)であった。

## 6. 3種類のテストを使用した英語力の増減の調査

1週目と14週目または15週目に語彙力測定として Nation's Vocabulary Levels Test、文法力測定テストとして Standard Grammar Test of the 7th version、英語総合力測定テストとして C-test を受講生 80名に第1週目と第14週目または第15週目に受験させ、英語力の増減の検証を試みた。語彙力の増減に関しては、平均で 409語の語彙数の増加が認められた。文法力の増減に関しては、60点満点のテストで平均1点の伸びが認められた。英語の総合力の増減に関しては、100点満点のテストで平均6点の伸びが見られた。

## 7. まとめ

昨年の本学会で報告したように、読みたい教材のアンケート調査で理系学部の学生の55%が、また文系学部の学生の67%の学生が小説を読みたいと答えていた。女子大学での文系理系学部の学生の81%の学生が小説を読みたいと答えていた。そして今回のアンケート調査では、非常に多くの学生が文学作品が教養を高める上で効果があると答えていた。また文学作品が英語力を高める上でも効果のある教材であることが判明した。斎藤兆史先生は「文学的素養はあとになってじんわりと効いてきます。そして、それを身につけた人の人となりを作っていく重要な要素になります。目先の実用だけを目指すのではなく、のちのち教養として輝きを放つような英語を身につけるためにも、時おり文学の英語を読むようにして下さい」と文学作品を読むことの効用について語っている。文学を愛し、文学が教養を伸ばす上で効果があると私自身も確信しているので、今後も文学作品を使用した授業実践を続けていきたいと考えている。